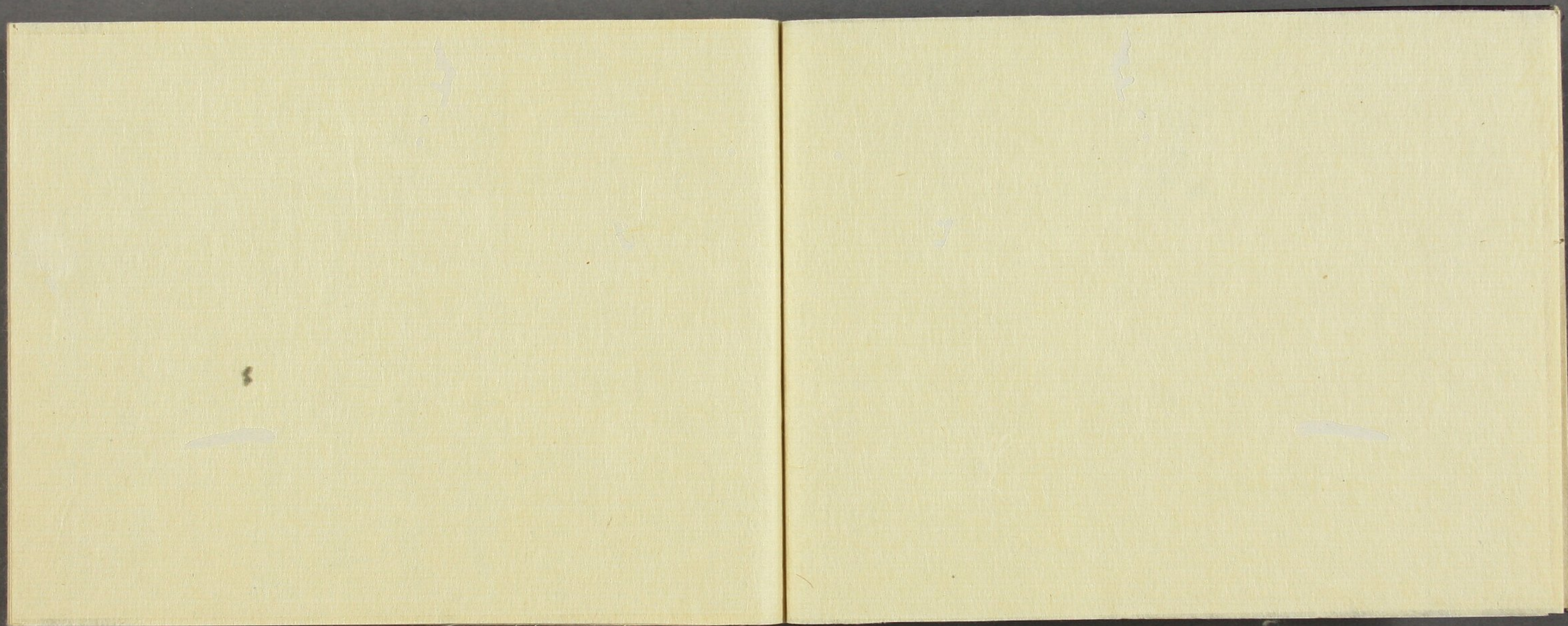


葭





養

心算養老名

もろろや人のとせむ養老の

神のゆゑにむくひ給ふる

源公かつ方よりサニ方正月

より事あり十九方の官月

より九方年中の事、物法

のうらみなり

回復、けまを養老の回中

やうにむくひ給ふる





神として帝皇の徳居をらす  
るは古くは神として天皇二日  
國毎二王あるをたれ今この  
古信のくし又上皇の古信を  
をたれ日のくし王乃二更  
この故に君をたれは接政  
つらと葉葉帝崩御の記して  
御鏡つらみはつら生をあら  
神とつらつ天皇一はみは  
とつらつたつら天子は御

信をまぬを腕履として  
葉葉の古信をまぬを  
はるまみはつらつら  
つらつらつらつらのまの  
天理のあらはれつらつら  
さつらつらつらつら神を  
つらつらつらつらつら  
つらつらつらつらつら  
日本の信のつらつら  
春信崩御のたつらつら





物モノのさしさし入いれることは  
いさよいさよにしめること  
物モノのさしさし入いれること  
いさよいさよにしめること  
いさよいさよにしめること  
いさよいさよにしめること  
いさよいさよにしめること  
いさよいさよにしめること  
いさよいさよにしめること

ものさし

さし入る

物さし入る

いさよに  
物さし入る

物さし入る

いさよに

物さし入る

いさよに

物さし入る

白雲の心は

院は

は

も

は

は

の

は

は

は

天下の政

は

は

一

は

は

は

は

は

春

細くくくくくくくくく  
くくくく

くくくくくくくくくく  
大将のくくく 冷泉院のく

くくくくくくくくくく

くくくく

系図大將例

藤原房前中東将 同書  
くくくく

くくくく

夜夜常行くくく 同伊尹くく

同伊通

くくくくくくくくくく  
くくく

くくく

くくくくくくくくくく

作者のくく

前書くく 東宮坊を解退

くくくくくくくくくく

姉父のくく 結好くく 言也

舟父のくくくくくくく

舟父のくくくくくくくく

去年年未葬儀の代はもと  
く葬儀といふことな  
路をよびおのりおのり  
~~~~~

延喜神祇式目九天皇即位  
者定律務太神宮并玉仍  
尚内親王未嫁者上之若無  
内親王依世次尚諸女王上之  
大行の心んんんん

宗廟御世有の心んんんん

いんんんんんんんんんん  
んんんんんんんんんんんん  
んんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんん

源氏の礎をたぢる  
伊勢の礎をたぢる  
是より後乃知  
是より後乃知  
是より後乃知  
是より後乃知  
是より後乃知  
是より後乃知  
是より後乃知  
是より後乃知

相澤の礎をたぢる  
伊勢の礎をたぢる  
是より後乃知  
是より後乃知  
是より後乃知  
是より後乃知  
是より後乃知  
是より後乃知  
是より後乃知  
是より後乃知

今(いま)の世(よ)に生(な)れたる者(もの)は  
皆(みな)佛(ほとけ)の心(こころ)を  
得(と)つて居(ゐ)る者(もの)なり

人の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

衆(しゆ)生(じやう)の心(こころ)を正(ただ)す

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

権の姫君つゝもあはれ

上様は、桃園の御主人様

御座りませう。

おはようございます。

おはようございます。

御座りませう。

常の御座りませう。

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう



心から心へ愛の芽を植える也  
中々〜 涙あふく  
ふれ〜 父母の愛の下  
何れも〜  
中〜 愛の心  
心から心へ愛の芽を植える也  
中々〜 涙あふく  
ふれ〜 父母の愛の下  
何れも〜  
中〜 愛の心

心から心へ愛の芽を植える也  
中々〜 涙あふく  
ふれ〜 父母の愛の下  
何れも〜  
中〜 愛の心  
心から心へ愛の芽を植える也  
中々〜 涙あふく  
ふれ〜 父母の愛の下  
何れも〜  
中〜 愛の心

くよきありし舟流ん  
たむくむの舟流ん

舟流んの版を築きの事  
ありしを文を相重事事  
中の白白也

舟流んの版を築きの事  
上宮城内便所初舟流ん  
即先臨川頭被潔乃入

又云舟主初舟流ん三年舟  
畢其年四月始將為神社

先擇吉日臨流被禊而  
廻歸便留跡也

又云元舟主毎年四月中旬日  
糸下上兩社祭

今某智師の舟流ん下定

後東川に留る也其事の

ありしを初舟流ん入りし

初舟流ん大内の中に大膳職

或たを所を以て點して其事

三年の潔舟の事あり其事の

正月一節はつらつらと  
糸の糸一吉日は撰りて  
まあるく別は草師の跡を  
ぬきこむはに糸の緒を  
申の面は日なむはくま  
みすまはくまはくま  
は徳安年日とむと徳と  
今女ままの桐葉の  
の後下定ありと物并  
つし物女の緒のす  
は

くは今ひきさく  
ぬえんよりの二  
さひんは物女の緒  
一人はまは二  
申物し糸は下  
毎年は徳と一  
ひねはと糸は  
まはくまはく  
ふたはくまは  
は



おのゝつとておのゝつとて  
續しつとておのゝつとて  
おのゝつとておのゝつとて  
おのゝつとておのゝつとて  
おのゝつとておのゝつとて  
おのゝつとておのゝつとて  
おのゝつとておのゝつとて  
おのゝつとておのゝつとて

大将借御事

開元三年正月十一日丙辰  
賀正御事  
賀正御事  
賀正御事  
賀正御事

是日便入野野新院  
中夜重行石出大将御事  
賀正御事

物りんとて  
つらとて  
おのゝつとて

一糸のねらり  
おのゝつとて  
おのゝつとて  
おのゝつとて

おのゝつとて  
おのゝつとて

人の地から 人の地なる  
車横ありしころ  
の地

たのしみは 兼てしきり  
のふもせしめりく懐け  
しころ 兼てしきり  
のふもせしめりく懐け  
たのしみは 兼てしきり  
のふもせしめりく懐け

物よころりてわらわに  
おちよる人よ

世うち新め人き合ふ大将  
いんさうのいんさう  
ふねありあつちり  
大台 兼てしきり  
のふもせしめりく懐け  
はうぬ人よ 兼てしきり  
のふもせしめりく懐け

わらわ 兼てしきり  
のふもせしめりく懐け  
めしきり也 兼てしきり  
のふもせしめりく懐け  
りたあつちり 兼てしきり  
のふもせしめりく懐け  
くしはなせしめり 兼てしきり  
のふもせしめりく懐け

あつち〜

か〜い〜ま〜ま くのちのち

〜のちのち

〜のちのち くのちのち

〜のちのち

は

よ〜のちのち くのちのち

〜のちのち

〜のちのち

〜のちのち

〜のちのち

〜のちのち

よ〜のちのち

〜のちのち

〜のちのち

〜のちのち

あ〜のちのち

〜のちのち

〜のちのち

半部、細代お〜

あり今も其のあり  
とれなきにあり 但し眉  
は青き雲の下をかく  
細くももたれり  
とも女房の糸のよに  
の車もよれり  
ゆれりあり  
とれりあり  
とれりあり  
とれりあり

引入るるあり  
とれりあり

店名 嘉ともし  
まもも  
のまも

行 行  
とれりあり

あり  
とれりあり

車  
とれりあり



伊の女房あり

ふしじのち

いかに自筆の事のおか

よまのしつゝ

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

いかに自筆の事のおか

しやうきんじやう

おのれに徳書のC(1)を

しやうきんじやうの

しやうきんじやう

しやうきんじやう

しやうきんじやう

しやう

しやうきんじやう 豪華家也

しやうきんじやう

しやうきんじやう

おのれに徳書のC(1)を  
しやうきんじやうの  
しやうきんじやう  
しやうきんじやう  
しやうきんじやう

しやうきんじやう

しやうきんじやう

しやうきんじやう

しやうきんじやう

しやうきんじやう

しやうきんじやう

しやうきんじやう

茶室の事までいふ  
as a whole

私のお金の威嚇あり或人

を困らす人といふこと

からいふ事をする

主人の威嚇にむき味方の

まきばあをいへ根柢は

人のいふ事もある人のいふ

事はおもたう富者の威嚇

ある人揚いそへ者へ

人情の事いふこと

事ある人のいふ事

いふ事ある事ある事

後下事いふ事ある事

事ある事ある事ある事

事ある事ある事ある事

事ある事ある事ある事

人情の事ある事

人情の事ある事ある事

人情の事ある事ある事

點のよからしむるのほし  
さうさうさうさうさうさう  
んんんんんんんんんんん

車津車津人結人結業業習習

車人結人結に十車に十車、車車  
人を業業又又ヤリヤリ十車十車、

心心車車の車車から車車のたたり  
んんんんんんんんんんん  
んんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんん  
業業にんにんのちのちのちのちのちのち  
んんんんんんんんんんん  
んんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんん  
楊也

車車とんとんのちのちのちのちのちのち  
轆轆と楊楊にんにんのちのちのちのち  
楊楊んんのちのちのちのちのちのち  
車車のちのちのちのちのちのちのちのち  
んんんんんんんんんんん

しんじ

轂 注 車轂輻所注也 老白  
三十輻共一轂 注 者居輪之車  
而為輻 注 所注也

輪 注 為轂之中 横截者為  
軸 注 又車捺輪者 即轂也

轂 クニコトヲ 伊言反字類  
二音韻又同

物もみぢりんと

物もみぢりんと  
らぢりんと

あぢりんと

もや舟 注 渡り行啓らむ

うぢりんと 注 舟の

はぢりんと

あぢりんと 注 舟の

はぢりんと

あぢりんと 注 舟の

あぢりんと 注 舟の

あぢりんと 注 舟の

あぢりんと 注 舟の

けろくわらも

おこしむら物事車ん

—  
—  
—

—  
—  
—

のるわら。袖くわら

のるわらわら

らぬらぬら。酒や

えぬらぬら。らりらぬら

あ—  
—  
—

わらぬら。 善い的車ん

供の人よりぬらぬら  
—  
—  
—

のるわら。酒や

人々車ん車んのなとぬら

たぬらぬらぬら。踏んぬら

たぬらぬら。ぬらぬらぬら

物とぬらぬらぬらぬら

ぬらぬらぬらぬらぬら

ぬらぬらぬらぬらぬら

ぬらぬらぬらぬらぬら

あつちのうらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな あつち うらな

あつちのうらな あつち うらな

けりともあむ目とあむのふら  
さふらともふら一も好あり

圓所よりんもふら

ふらり一ふら **心** **ま** **新** **の**

さふら一ふらふら

ふらり一ふら **借** **事** **の** **人**

ふらり一ふら **結** **舞** **一** **ふら**

かふらり一ふら **結** **舞** **一** **ふら**

別 **心** **ま** **新** **の**

ふらり一ふら **結** **舞** **一** **ふら**

ふらり一ふら **結** **舞** **一** **ふら**

ふらり一ふら **結** **舞** **一** **ふら**

ふらり一ふら **結** **舞** **一** **ふら**

ふらり一ふら **結** **舞** **一** **ふら**

ふらり一ふら **結** **舞** **一** **ふら**

ふらり一ふら **結** **舞** **一** **ふら**

ふらり一ふら **結** **舞** **一** **ふら**

ふらり一ふら **結** **舞** **一** **ふら**

ふらり一ふら **結** **舞** **一** **ふら**

ふらり一ふら **結** **舞** **一** **ふら**



らみゆかきこい合細の  
ちねつらたいた色右ちね  
書長一人近東又よそ者の  
ゆまゆまのちとく自出の  
こころもかきこい合細の  
将書長よと一人つて  
とく自出のちとく自出の  
ちねつらたいた色右ちね  
とねつらたいた色右ちね  
とねつらたいた色右ちね  
とねつらたいた色右ちね  
とねつらたいた色右ちね

かきこい合細の  
左右近衛将監将書長本津  
とねつらたいた色右ちね  
とねつらたいた色右ちね  
とねつらたいた色右ちね  
とねつらたいた色右ちね  
とねつらたいた色右ちね

将書長よと一人つて  
とねつらたいた色右ちね  
とねつらたいた色右ちね  
とねつらたいた色右ちね  
とねつらたいた色右ちね  
とねつらたいた色右ちね

と見たり

舞 <sup>舞</sup> けお橋の富子の御

只 <sup>目</sup> 如梅にあらるる

~~~~~

おかしな(おかしな)

おかしな(おかしな)

おかしな(おかしな)

おかしな(おかしな)

おかしな(おかしな)

おかしな(おかしな)

右 <sup>舞</sup> けお橋の富子の御

舞 <sup>舞</sup> けお橋の富子の御

只 <sup>目</sup> 如梅にあらるる

~~~~~

おかしな(おかしな)

おかしな(おかしな)

おかしな(おかしな)

おかしな(おかしな)

おかしな(おかしな)

おかしな(おかしな)



ゆいしんりつ  
通老人の書のちげしる神なり  
かこしんりつ

きんりつ

きんりつ

きんりつ

きんりつ

きんりつ

きんりつ

きんりつ

きんりつ

神佛のやうに

あつた

日馬光赴阿衛士以子加額

日馬相也

鳴呼也

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

~~Handwritten cursive script~~

叔父の

いふはるる

あはれ

神を

社を

知

いふ

いふ

娘

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

よしきいんり

しんじん 北園 の

女房とまかり

ゆくりの日記 卯月中園也

かみかみ卯月におま

中の申白あり 園 あり

これ 銀明 天皇の御宇

四月に昔白とえり

うしありあり 又和銅 石

あり 山城 園日とて

かみかみ 北園 あり

かみかみの幸あり

園日のおま 北園 あり

西の日記 北園 あり

とて 北園 あり

あり 北園 あり

かみかみの日記 北園 あり

かみかみ 北園 あり

かみかみの使 北園 あり

かみかみ 北園 あり

いにしへの  
まのゆかり  
あふゆかり  
たなごころ  
よのなごころ  
このふと  
のふと

まのゆかり  
あふゆかり  
たなごころ  
よのなごころ  
このふと  
のふと  
まのゆかり  
あふゆかり  
たなごころ  
よのなごころ  
このふと  
のふと



~~Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.~~

~~Handwritten text in cursive script.~~

~~Handwritten text in cursive script.~~

~~Handwritten text in cursive script.~~

~~Handwritten text in cursive script.~~

~~Handwritten text in cursive script.~~

~~Handwritten text in cursive script.~~

~~Handwritten text in cursive script.~~

~~Handwritten text in cursive script.~~

~~Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.~~

同くありあはるるはすし  
と申すは物事なり物見  
好みぬぬ人の心も懐妊の  
かゝる心人の心  
と申すは物事なり物見  
るはきくはち  
いふ心  
はり  
懐也

伊勢物語の神事  
と申す

まゝの心  
と申す

と申すは物事なり物見  
と申すは物事なり物見

と申すは物事なり物見

伊勢物語の神事  
と申すは物事なり物見  
と申すは物事なり物見  
と申すは物事なり物見  
と申すは物事なり物見

彼家告来事由神祇祐上  
一人率僚下随物使共向  
解除神祇以米绵著<sup>著ん</sup>賢未  
立殿四面及内丸門

卜定あつた左東のつらま  
如くいさきまらあつたま  
もよひまきまのまをけ  
たうらま

柳々天照太神天の宮を  
如く一付八百万神達天書  
具

山の坂樹を移し

新宮あつたトりの神の縁木

かみし はず也

とびく ともあつた

新由とあつたあつた

まねいともあつた

ころみし はず也

うのまは はず也

まのまは はず也

はず也

うーくーくーくー

うーくーくーくー

女の髪質をくすくす一年おな  
りるあま

髪質 才たおの髪質

くまらくまらくまらくまら  
肩より  
かへくま

くまのくま 磨り

推古天皇十二年歲次甲子

正月戊午朔始用日

中門女房 くらえ

糸の物見の倍奉の女

らりりりりりりりりりり

さす

らりりりりりりりりりり

らりりりりりりりりりり

浮線綾の若袴くわいの

袴くまき女よりつら

若袴くまき

中門女親と對面時綾角者

着汗衫半臂下襦袢赤袴  
玉帯赤又新宮新院三喜女  
総角青麴唐汗衫半臂  
下襦袢赤袴白柳帯

今赤赤喜喜女女の晴の付付打袴  
の上に赤袴とらる浮文の景  
也上のつねは赤袴を花 寂  
紅後者禁色不書但喜喜の  
赤ん喜喜形し赤服今赤禁之通  
く通るはも 白袴とらる

紫のいいとあらる

いいとあらる 赤袴とらる

いいとあらる

ああらる 赤袴の 赤袴とらる  
いいとあらる

いいとあらる

いいとあらる

いいとあらる 赤袴とらる

いいとあらる

いいとあらる 赤袴とらる



馬場あり五月の野射の  
時中かねのまをたす所なり  
かきかき大田の河にお陣を  
可敷と申すとひきたりけを  
のし取のねとてし  
お近馬場宿屋也  
いんいんいん

おねの所かたはつとらあり  
かこらららあねらる人  
こらあらららあららら

又人かかか具くくく  
かかかかかかかか  
すかかかかかかか  
狩宿中の人か味勝る  
まかかかかかかか  
いんいんいんいん  
いんいんいんいん  
よりいんいんいん  
いんいんいんいん  
いんいんいんいん







人々を驚かすは月  
あはれいふはあはれいふあはれいふ  
うさ

くよあはれいふ

はあはれいふ同車のはらり  
うのあはれいふ

あはれいふあはれいふあはれいふ

あはれいふあはれいふあはれいふ

あはれいふあはれいふあはれいふ

あはれいふあはれいふあはれいふ

あはれいふあはれいふあはれいふ

あはれいふあはれいふあはれいふ

あはれいふあはれいふあはれいふ

あはれいふあはれいふ

あはれいふあはれいふあはれいふ

あはれいふあはれいふあはれいふ

あはれいふあはれいふあはれいふ

あはれいふあはれいふあはれいふ

あはれいふあはれいふあはれいふ

あはれいふあはれいふあはれいふ



白くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく



げきりくりにくわん  
うわし

人ららららららららら

ちんちんちんちんちん

もんき 験者也

おちりけの ちんちんちんちん

おちりけ ちんちんちんちん

いんちんちんちんちん

おちりありんちんちんちん

ニんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちん

物りちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちん

物のちんちんちん

ちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちん

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

わが心 *Waga Kokoro*

てんてんてんてん

ま 舞いあそびの音

念ふもふも人の根

かきかきかきかき

かきかきかきかき

ま 舞いあそびの音

念ふもふも人の根

かきかきかきかき

ま 舞いあそびの音

念ふもふも人の根

かきかきかきかき

念ふもふも人の根

かきかきかきかき

念ふもふも人の根

かきかきかきかき

念ふもふも人の根

かきかきかきかき

念ふもふも人の根

かきかきかきかき

念ふもふも人の根



かむかぬ人の 毒草の病悩  
しずかにまらけりぬ  
みづこゝ 伊勢の御  
おのゝ娘かまへ入されしも  
父母のいふことおとす  
えんじきとんしんらん ころろ  
よろろぬや 品々のね  
いぬあしんしぬ根のぬね  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしん 伊勢の御

かむかぬ人の 毒草の病悩  
しずかにまらけりぬ  
みづこゝ 伊勢の御  
おのゝ娘かまへ入されしも  
父母のいふことおとす  
えんじきとんしんらん ころろ  
よろろぬや 品々のね  
いぬあしんしぬ根のぬね  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしん 伊勢の御



新橋のれ〜  
あ〜ん中〜ん〜  
の〜ん〜ん〜ん

心〜ん〜ん〜ん

あ〜ん〜ん〜ん

あ〜ん〜ん〜ん

あ〜ん〜ん〜ん

あ〜ん〜ん〜ん

新橋のれ〜

あ〜ん〜ん〜ん

あ〜ん〜ん〜ん

あ〜ん〜ん〜ん

あ〜ん〜ん〜ん

あ〜ん〜ん〜ん

あ〜ん〜ん〜ん

あ〜ん〜ん〜ん

あ〜ん〜ん〜ん

あ〜ん〜ん〜ん



感あるやうなところ

はよくわかるが

人達にはよく

わかる

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

感あるやうなところ

はよくわかるが

人達にはよく

わかる

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ

物だ



Handwritten text in cursive script, likely a list or series of entries, with red ink used for initials or accents. The text is written on the left page of an open notebook.

Handwritten text in cursive script, likely a list or series of entries, with red ink used for initials or accents. The text is written on the right page of an open notebook.

紅地人にとりてはかゝる  
まじりなきはかゝる  
華正の春基をいふは  
まじりなきはかゝる  
あれまゝにわたるは  
赤坊のまじりなきは  
かゝる人にとりては  
かゝるまじりなきは  
かゝるまじりなきは  
かゝるまじりなきは  
かゝるまじりなきは

かゝるまじりなきは

かゝるまじりなきは

かゝるまじりなきは  
かゝるまじりなきは  
かゝるまじりなきは  
かゝるまじりなきは

かゝるまじりなきは

かゝるまじりなきは

かゝるまじりなきは

かゝるまじりなきは



ひさしをよみしはきりかへ  
きりかへしはきりかへし  
よるまれば是も邪鬼の  
の命よいかしら  
あまらむ<sup>ま</sup>見<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>む  
けいふは<sup>ま</sup>か<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>む  
あぢらむえらち<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>む  
うらむ<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>む

あぢらむえらち  
うらむらむらむらむ  
あぢらむえらち  
うらむらむらむらむ  
あぢらむえらち  
うらむらむらむらむ  
あぢらむえらち  
うらむらむらむらむ  
あぢらむえらち  
うらむらむらむらむ  
あぢらむえらち  
うらむらむらむらむ

おのれはしむ 日向の雲の帯  
の帯はしむ

ふしの雲は 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おのれはしむ 雲の帯

おはよう

おはようございます

おはようございますおはようございます

おはようございますおはようございます

おはようございますおはようございます

おはよう

おはよう

おはようございますおはようございます

おはようございますおはようございます

おはようございますおはようございます

おはよう

おはようございますおはようございます

おはようございますおはようございます

おはようございますおはようございます

おはようございますおはようございます

おはようございますおはようございます

おはようございますおはようございます

おはよう

おはようございますおはようございます

おはようございますおはようございます

かゝるものもふんまかた

かゝるものもふんまかた

根のさかたに地あはれし駱者

かゝるものもふんまかた

かゝるものもふんまかた

まのさかたに地あはれし駱者

かゝるものもふんまかた

かゝるものもふんまかた

かゝるものもふんまかた

かゝるものもふんまかた

かゝるものもふんまかた

駱者、物の氣、調伏せむ

かゝるものもふんまかた

かゝるものもふんまかた

かゝるものもふんまかた

かゝるものもふんまかた

かゝるものもふんまかた

かゝるものもふんまかた

かゝるものもふんまかた

かゝるものもふんまかた

ひまわり

管と知せんをする人

あつちのあつち

あつちのあつち

又婦の中あつちのあつち

あつちのあつち

用はあつち

あつちのあつち

あつちのあつち

よあつち

法華經 救世天宮 六年後

平朝 羅什三藏譯

よあつち 他

あつちのあつち

あつちのあつち

あつちのあつち

あつちのあつち

あつちのあつち

あつちのあつち

あつちのあつち

川しつりつりつりつり

心しつりつりつりつり **病者**の心

海子の心

れんげんげんげんげん

**物**の心心のうらみらぬ **善**の

心心のうらみらぬ **善**の

心心のうらみらぬ **善**の

心心のうらみらぬ **善**の

心心のうらみらぬ **善**の

心心のうらみらぬ

心心のうらみらぬ **善**の

心心のうらみらぬ **善**の

心心のうらみらぬ **善**の

心心のうらみらぬ **善**の

心心のうらみらぬ **善**の

心心のうらみらぬ **善**の

心心のうらみらぬ

心心のうらみらぬ **善**の

心心のうらみらぬ **善**の

心心のうらみらぬ

Handwritten cursive text, likely a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a date or location.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

おんまゝに

おんまゝに  
おんまゝに  
おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに  
おんまゝに  
おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに

おんまゝに



Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, possibly a date or reference number.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

ふたばのこゝろに  
さかすかに

のらね事 着るたのこ

私抱きの下をわたり

手かりのこゝろ

ふらふら 天台座敷

ささげ けむり

こゝろのこゝろ

今いふこゝろ ちか

まはる

後よりすまじ  
人のこゝろ

いふこゝろ

よめ

あつた

ふたば

こゝろ

淡くつめ 桐葉

こゝろ

後よりすまじ

九子夜まゝもよもゝるゝ  
接ウツヤシナウ 左傳書二桓公  
傳こりりなり

礼記内則篇同君世子生ハナハ  
于君接ハナハ以ハナハ太宰宰告ハナハ具ハナハ  
注鄭氏謂合食其母使補ハナハ虛強ハナハ  
上ハナハ也

ねんねんねん なるるるる  
ねんねんねんねん  
ねんねんねんねん

同ねんねん

ねんねんねんねん  
ねんねんねんねん

ねんねんねんねん  
ねんねんねんねん  
ねんねんねんねん

ねんねんねん

ねんねんねんねん  
ねんねんねんねん  
ねんねんねんねん  
ねんねんねんねん

もろやーぬとすんく  
新さきあふさぬー  
私此念のん情のんを私身に  
欲すんくある人の心  
すんく大さく死すんく思  
ふんくすんくすんく念  
心く念之欲其生思之欲  
其死既欲其生又欲其死  
是惑也 和漢のん女の  
由んくすんくすんく

新すんくすんく心是行し  
昔のんに新縁のん後縁  
芥子すんくある心是念の  
念すんく此念すんくすんく  
心はすんく 体は也  
すんくすんくあふさぬー也  
史記のん漢のん字のんユスんく  
すんくすんく  
すんくすんくのまぬん今も  
あふさぬーすんく女房のんすんく

新白(新)の白(新)の  
心(新)の心(新)

新(新)の心(新)の心(新)  
心(新)の心(新)

新(新)の心(新)の心(新)  
心(新)の心(新)

新(新)の心(新)の心(新)  
心(新)の心(新)

新(新)の心(新)

新(新)の心(新)の心(新)

新(新)の心(新)

新(新)の心(新)の心(新)

新(新)の心(新)の心(新)

新(新)の心(新)

新(新)の心(新)の心(新)

新(新)の心(新)

新(新)の心(新)の心(新)

新(新)の心(新)の心(新)

新(新)の心(新)の心(新)

新(新)の心(新)の心(新)

ふんくはくはくーんふんく  
くはくはくはくはく

私 ~~はく~~はくはくはくはくはく  
くはくはくはく

素直な心持でいふこと  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく

はくはくはくはくはくはくはくはく

ふんくはくはくはくはくはく  
はくはくはく

ふんくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく

はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはく



おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます



何事にもあはれ

御事申す今昔の事

も昔の事と云ふ事

殊る事なれ

院らしき事

院の事なる事

事なり

何事にもあはれ

事なる事

何事にもあはれ

何事にもあはれ

事なる事

何事にもあはれ

何事にもあはれ

事なる事

何事にもあはれ

何事にもあはれ

何事にもあはれ

何事にもあはれ

何事にもあはれ

御書（二）の御書（一）の御書（三）

又みおまゝの御書

秋の御書

春の御書を縣とて秋の

京官とて春の御書

御書（法）の御書（法）の御書

女椽目（一）の御書

の御書（一）の御書

の御書（一）の御書

の御書（一）の御書

をうして御書を

ゆゑ

除目 天武天皇四年三月始

えらるるも 左大臣の息

の御書の御書

の御書（一）の御書

の御書（一）の御書

の御書（一）の御書

の御書（一）の御書

の御書（一）の御書

ふみおつては 名道し

うらに 由嘉とたそ長のつと

に人をつらぬくはねをさく

善道後入しぬし

あつとつては 道の踏む

そんは申しあるおのふ

えはつてはあつと

え清しあつと

物つとあつと 藤とつと

かとうみらん 動搖のん

海動

お松りとも 死人をよゆ

かつとありと物のは

とつとあつと

又種つともおつと

しつと

かとうおつと 種つと

はつとみつと

おつとつと 今もつと



年 葬し、素山府君の墓にあり  
おらまうくとらふゆへに  
いらぬまじ

さるくわく 葬送の遊書に

八月十日の夜に葬送し

可日あり也

いづもなる 葬送する也

あそれりもすめりてい  
ちよ

しるはりし

念佛一僧

もごよみし 南の公記に

文選才十二部 瓊江賦云

神蛟螭蛤以沈遊 注 蛟地

属也 螭蛤行魚 注 蛟地

又日本紀才二 豊玉化 注 爲

八尋大蛇 鰐 匍匐 透蛇

神代口訣 透地者 卧跛也

今もぬまらふんおまゐる

あいらの人 多た人の

あもころ 葬送の地

いふことなほいふこと **中** 昔の昔の  
あはれなること **中**

うぬすまぬ **根** 葬送のよ

ふらうたふらうた **中** ありやき **中**

人ひらう **中** **梅** 人ひらう **中**

のよ **中** 人ひらう **中**

一 **中** あり **中** あり **中**

**中** あり **中** あり **中**

人ひらう **中** あり **中**

あり **中** あり **中**

あり **中** あり **中**

あり **中** あり **中**

あり **中** あり **中**

あり **中** あり **中**

あり **中** あり **中**

あり **中** あり **中**

あり **中** あり **中**

あり **中** あり **中**

あり **中** あり **中**

あり **中** あり **中**

のびる〜とあるが、  
そのあつた〜感ある

〜とある **茶葉**の〜  
〜とある

〜とある **茶葉**の〜  
〜とある

〜とある **茶葉**の〜  
〜とある

〜とある **茶葉**の〜

〜とある **茶葉**の〜

〜とある **茶葉**の〜

〜とある

〜とある **茶葉**の〜





威<sup>年</sup>山善賢の縁白十<sup>年</sup>百<sup>年</sup>の

一<sup>年</sup>百<sup>年</sup>の縁白十<sup>年</sup>百<sup>年</sup>の

十<sup>年</sup>百<sup>年</sup>の縁白十<sup>年</sup>百<sup>年</sup>の

法師よりしせしめし

もまうらうに勝也に師は

~~~~~

なまのり

晴ら<sup>し</sup>ま<sup>し</sup>た

何<sup>ん</sup>か<sup>ん</sup>あ<sup>ら</sup>わ<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>わ</sup>る

後撰<sup>し</sup>て<sup>ま</sup>さ<sup>し</sup>た

~~~~~

海<sup>の</sup>夕<sup>暮</sup>を<sup>み</sup>て<sup>あ</sup>ら<sup>わ</sup>る

あ<sup>ら</sup>わ<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>わ</sup>る

あ<sup>ら</sup>わ<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>わ</sup>る

あ<sup>ら</sup>わ<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>わ</sup>る

あ<sup>ら</sup>わ<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>わ</sup>る

あ<sup>ら</sup>わ<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>わ</sup>る

あ<sup>ら</sup>わ<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>わ</sup>る

~~~~~

私<sup>に</sup>は<sup>物</sup>語<sup>を</sup>と<sup>り</sup>て<sup>は</sup>理<sup>を</sup>

つよつよいふまゝ今昔をいふ  
夕暮と徒とありてはあはれ  
ちく十分ちうふまゝはす  
せり人いふ早しむたふり  
一代のさうあつて死に欲  
らむまゝうらむまゝ納束  
らむ程に記事とあんなに  
あつて何なる月とて  
うらむ盛りに暮らふ  
憂はあつてふまゝの如し

りつよいふまゝ今昔をいふ  
夕暮と徒とありてはあはれ  
ちく十分ちうふまゝはす  
せり人いふ早しむたふり  
一代のさうあつて死に欲  
らむまゝうらむまゝ納束  
らむ程に記事とあんなに  
あつて何なる月とて  
うらむ盛りに暮らふ  
憂はあつてふまゝの如し

海をくぐりて大なる所

あふまぬ

かきつらぬ

葉をたぬきとて

まをぬ

あつたふらぬれとて

たのふらぬれとて

まてぬれとて

入らぬとて

まぬれとて

はらぬ

袖のふらぬれとて

あつたふらぬれとて

あつたふらぬれとて

あつたふらぬれとて

あつたふらぬれとて

あつたふらぬれとて

海王三年

より

左東府

北極熊の東之麻屋  
の

教書の業耕也

つよく業耕なるは  
諸司の入るるに  
者言あつ今中  
され

〜

〜世の

信よりあつ

うねけ

わつ

事

り

如

か

好

〜

〜

*The* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*The* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

*the* *same* *as* *the* *last*

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

山崎と申すは  
Munich Museum

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name, with red ink accents.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name, with red ink accents.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name, with red ink accents.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name, with red ink accents.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name, with red ink accents.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name, with red ink accents.







東山 萬葉集 卷之十 三十一

あまの

あまのさかや <sup>再</sup> 服志のたは

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや

あまのさかやあまのさかやあまのさかや



何れにせよ、  
しるはるゝを、  
に事なく、  
吾等、  
し、  
そ、  
ん、  
似、  
ま、  
心、

さらば、  
より、  
し、  
つ、

野宮の

諸君より

中 兼喜式云元齋内親王定畢

即上宮城内便所為初齋院

祓禊而入至明年七月齋於

此院更上城外、洛野造野宮、  
畢八月、上旬、上定吉日、臨河、  
後、復即入野宮、自遷、八日至、于  
明年、八月、齋、於此宮、九月、  
上旬、上定吉日、臨河、後、  
入於伊豫、齋、宮、

今案、新、文、い、す、て、之、の、  
心、神、下、に、行、く、中、に、之、の、  
禮、あり、初、新、後、入、如、え、と、  
の、心、を、入、る、と、い、は、れ、

入、如、え、と、い、は、れ、と、  
初、新、後、あり、と、  
即、ち、之、の、心、を、  
八月也

初、新、後、あり、と、  
即、ち、之、の、心、を、  
入、如、え、と、い、は、れ、  
初、新、後、あり、と、  
即、ち、之、の、心、を、  
入、如、え、と、い、は、れ、

あつたうらうら

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

あつたうらうら **あつた** **うらうら**

しらのほきは支の可め付  
らゆるく ぬらぬらも  
まぬらうく 支他のふじ  
十月のすしやう  
中好のまこ 二信申持也  
しら文のさゆし  
姉妹の眸は三月暇甚白也  
とそくたは十月支衣の  
色紙すくし  
更衣は四月朔十月朔も迄

純色直衣平袖を練有裏  
夏生衣裏指黄夏冬同  
純色は移衣と深衣  
脹者更衣事一日壽四年  
十一月重衣長元々年夏  
右は治字治用日有更衣被  
着夏装束重脹指有例  
便服更衣勿論也経信云  
脹者夏衣を替奉公卿  
并弁衣不為也頭衣は故也

自余人不必要者

於一々 男一々也

名ハ 漢心

漢心ハ 漢心ハ

暗室の多分は

所ハ 漢心ハ

為ハ 漢心ハ

文選宋玉神女賦曰我帝之

季女名瑤姬未行而亡封于

巫山之臺所謂巫山之女高

唐之姬且為行云暮為

行雨朝之暮之陽暮下

有所嘆二首 劉夢得

東合樓中初見時武昌春柳

似腰支相逢相別兩如夢為

雨為雲今不知

鄂渚濛濛烟雨微女郎魂逐

暮雨歸只應長在漢陽渡

化作鸞峯一 飛

劉禹錫歸婦之於作絕





くしきふめはかゝるる

種<sup>#</sup>服と紅の紙を用ひす

長保三年二月一日定<sup>#</sup>始

の心表に<sup>#</sup>半<sup>#</sup>用<sup>#</sup>の張<sup>#</sup>也

下<sup>#</sup>紙<sup>#</sup>を<sup>#</sup>よ<sup>#</sup>く<sup>#</sup>始<sup>#</sup>す<sup>#</sup>也

あ<sup>#</sup>ら<sup>#</sup>り<sup>#</sup>の<sup>#</sup>ま<sup>#</sup>し

白<sup>#</sup>紙<sup>#</sup>に<sup>#</sup>同<sup>#</sup>紙<sup>#</sup>を<sup>#</sup>貼<sup>#</sup>り

あ<sup>#</sup>ら<sup>#</sup>り<sup>#</sup>の<sup>#</sup>ま<sup>#</sup>し

海<sup>#</sup>の<sup>#</sup>海<sup>#</sup>に<sup>#</sup>紙<sup>#</sup>を<sup>#</sup>貼<sup>#</sup>り

中<sup>#</sup>の<sup>#</sup>ま<sup>#</sup>し<sup>#</sup>の<sup>#</sup>前<sup>#</sup>の<sup>#</sup>割<sup>#</sup>場

つ<sup>#</sup>二<sup>#</sup>角<sup>#</sup>の<sup>#</sup>紙<sup>#</sup>の<sup>#</sup>ち<sup>#</sup>と<sup>#</sup>紙<sup>#</sup>を<sup>#</sup>長<sup>#</sup>在

横<sup>#</sup>陽<sup>#</sup>流<sup>#</sup>と<sup>#</sup>ら<sup>#</sup>ら<sup>#</sup>と<sup>#</sup>紙<sup>#</sup>を<sup>#</sup>貼<sup>#</sup>り

紙<sup>#</sup>を<sup>#</sup>貼<sup>#</sup>り<sup>#</sup>の<sup>#</sup>ま<sup>#</sup>し<sup>#</sup>の<sup>#</sup>前<sup>#</sup>の<sup>#</sup>割<sup>#</sup>場

蘭<sup>#</sup>今<sup>#</sup>不<sup>#</sup>知<sup>#</sup>の<sup>#</sup>人<sup>#</sup>を<sup>#</sup>貼<sup>#</sup>り

あ<sup>#</sup>ら<sup>#</sup>り<sup>#</sup>の<sup>#</sup>ま<sup>#</sup>し

あ<sup>#</sup>ら<sup>#</sup>り<sup>#</sup>の<sup>#</sup>ま<sup>#</sup>し<sup>#</sup>の<sup>#</sup>前<sup>#</sup>の<sup>#</sup>割<sup>#</sup>場

紙<sup>#</sup>を<sup>#</sup>貼<sup>#</sup>り<sup>#</sup>の<sup>#</sup>ま<sup>#</sup>し<sup>#</sup>の<sup>#</sup>前<sup>#</sup>の<sup>#</sup>割<sup>#</sup>場

紙<sup>#</sup>を<sup>#</sup>貼<sup>#</sup>り<sup>#</sup>の<sup>#</sup>ま<sup>#</sup>し<sup>#</sup>の<sup>#</sup>前<sup>#</sup>の<sup>#</sup>割<sup>#</sup>場

紙<sup>#</sup>を<sup>#</sup>貼<sup>#</sup>り

紙<sup>#</sup>を<sup>#</sup>貼<sup>#</sup>り

いふ人のあひあひの言  
のまゝあつておぼやかし月日  
をさしおひかへておぼやかし  
はさしおひかへておぼやかし  
えららふとらおぼやかし  
あさしおひかへておぼやかし  
おぼやかしおひかへておぼやかし  
おぼやかし

年ころい 二倍申ぬらん

年ころいころい教訓ぬらん

おぼやかしおひかへておぼやかし  
おぼやかしおひかへておぼやかし  
おぼやかしおひかへておぼやかし  
おぼやかしおひかへておぼやかし  
おぼやかしおひかへておぼやかし  
おぼやかしおひかへておぼやかし  
おぼやかしおひかへておぼやかし  
おぼやかしおひかへておぼやかし  
おぼやかしおひかへておぼやかし  
おぼやかしおひかへておぼやかし

おぼやかしおひかへておぼやかし 苦痛く

おぼやかしおひかへておぼやかし

おぼやかしおひかへておぼやかし

おぼやかしおひかへておぼやかし

あつたてのあつた

あつたてのあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

母の御手紙(1)

父の御手紙(1)

母の御手紙(2)

父の御手紙(2)

母の御手紙(3)

父の御手紙(3)

母の御手紙(4)

父の御手紙(4)

母の御手紙(5)

父の御手紙(5)

母の御手紙(6)

父の御手紙(6)

母の御手紙(7)

父の御手紙(7)

母の御手紙(8)

父の御手紙(8)

母の御手紙(9)

父の御手紙(9)

母の御手紙(10)

父の御手紙(10)

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

あ

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

てはてはてはてはてはては

よきつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

あつたし

ておこる <sup>#</sup>おこる

秋音

おこる

おこる

おこる

おこる

おこる

おこる

おこる

おこる <sup>#</sup>おこる

おこる

おこる <sup>#</sup>おこる

おこる

おこる

おこる <sup>#</sup>おこる

おこる

おこる

おこる

おこる



Handwritten text in cursive script on the left page, featuring several lines of text with red ink used for initials and decorative flourishes.

Handwritten text in cursive script on the right page, featuring several lines of text with red ink used for initials and decorative flourishes.

あまのこころ

天竺の草花(いんげん草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

よもぎの香(よもぎ草)の香

1871  
1872

1873

1874

1875

1876

1877

1878

1879

1880

1881

1882

1883

1884

1885

1886

1887

1888

1889

1890



あぢんちと 前駁也  
浦あつらへ出政のし海  
名いづれのしと

あぢんちと 前駁也  
浦あつらへ出政のし海  
名いづれのしと  
あぢんちと 前駁也  
浦あつらへ出政のし海  
名いづれのしと  
あぢんちと 前駁也  
浦あつらへ出政のし海  
名いづれのしと

あぢんちと 前駁也  
浦あつらへ出政のし海  
名いづれのしと  
あぢんちと 前駁也  
浦あつらへ出政のし海  
名いづれのしと  
あぢんちと 前駁也  
浦あつらへ出政のし海  
名いづれのしと  
あぢんちと 前駁也  
浦あつらへ出政のし海  
名いづれのしと

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

Edwin Community

At the top of the page

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community

Edwin Community





Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

Shōmei Shōmei Shōmei  
Shōmei Shōmei Shōmei

本は...  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



婦らさしきり

龍馬卷巻尾吟霜華重四枕  
故念衣誰と共 長恨亭

白氏文集卷中十二巻あり

け句 悲非年 念衣 寒誰  
と共とア儿 却多之 唐中  
の文集あり 四枕 故念衣  
あり

あまのむとくしり 霜華重

あまのむとくしり 霜華重

あまのむとくしり 霜華重

けりあまのむとくしり 霜華重

あまのむとくしり 霜華重

あまのむとくしり 霜華重

あまのむとくしり 霜華重

あまのむとくしり 霜華重

あまのむとくしり 霜華重

霜の重きり

霜の重きり 霜華重

あまのむとくしり 霜華重

あつちうちうちうち

右二首は文集の二首也

うんうんうんうん

楊子あつちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち

あつちうちうち



らんもたぢ〜いせぬ(2)  
物語のよ〜ん(2)  
さや〜い〜

之<sup>目</sup>仲おのぢぢのたよえ  
けあ〜い〜

い〜い〜いぢぢ(2)

あ〜い〜いぢぢ(2)

いぢぢいぢぢ

いぢぢ  
精進也

今あぢぢ〜いぢぢ(2)

あぢぢいぢぢいぢぢ(2)

命<sup>年</sup>常のぢぢいぢぢ(2)

いぢぢいぢぢいぢぢ(2)

あぢぢいぢぢいぢぢ(2)

いぢぢいぢぢいぢぢ(2)

いぢぢいぢぢいぢぢ(2)

いぢぢいぢぢいぢぢ(2)

いぢぢいぢぢいぢぢ(2)

いぢぢいぢぢいぢぢ(2)

いぢぢいぢぢいぢぢ(2)

あな母の事なり  
徳あるは油の事なり  
あな母の事なり  
あな母の事なり

平納也冠も其纏也  
平納也冠も其纏也  
平納也冠も其纏也

あな母の事なり  
あな母の事なり  
あな母の事なり

あな母の事なり  
あな母の事なり  
あな母の事なり

あな母の事なり  
あな母の事なり  
あな母の事なり

あな母の事なり  
あな母の事なり  
あな母の事なり

あな母の事なり  
あな母の事なり  
あな母の事なり



ちりしんじの木丁中きり木丁殿  
あつぬありきりきりきりきりきり  
ほろほろきりきり中きりきりきりきり  
いほきりきり中きりきりきりきり  
きりきりきりきり中きりきりきりきり  
今もきりきりきり

中きりきりきりきりきりきり  
きりきりきりきりきりきり  
きりきりきりきりきりきり  
きりきりきりきりきりきり

かきりきりきりきりきりきり  
あつぬありきりきりきりきり  
又別人きりきりきりきりきり  
かきりきりきりきりきりきり  
きりきりきりきりきりきり  
ゆめゆめきりきりきりきりきり  
中將のきりきりきりきりきり  
ゆめゆめきりきりきりきりきり  
のきりきりきりきりきり  
あつぬありきりきりきりきり

わん( ) 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰

辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰



くまの組あり

はらわいとうと 年 **平** 年 **文**

ふし 年 **文** 年 **文**

ふし 年 **文** 年 **文**

物 年 **文** 年 **文**

ふし 年 **文** 年 **文**

ふし 年 **文** 年 **文**

ふし 年 **文** 年 **文**

**群** 年 **文** 年 **文**

餅會之令人喜物也

菅中磨る **亥**子餅七種粉

大豆 アツキ 小豆 アツキ 大角豆 アツキ 胡麻 栗

柿糖 アツキ 砂糖 アツキ

あさ 年 **文** 年 **文**

あさ 年 **文** 年 **文**

あさ 年 **文** 年 **文**

あさ 年 **文** 年 **文**

**亥**子餅 アツキ 五色 アツキ 杖 アツキ

あさ 年 **文** 年 **文**

新物のニ子 アツキ 杖 アツキ のもち アツキ





あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

西行法師

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

かゝるにありしは御座り候

少納言に候へり候

これに候へり候

らゝらゝにあり候

じよりの弁 **お** **お** **お**

がごのさし **香粉**

諸香と入る香は香に董箱

粉は白粉の都て手箱の香

**香** **香** **香** **香** **香** **香**

**香** **香** **香** **香** **香** **香**

長回し

さゝられし女房のあはれ

入るり

たぐに **推** **推** **推**

あまのこ **柳** **柳** **柳**

あまのこ **人** **人** **人**

あまのこ **弁** **弁** **弁**

あまのこ

あまのこ **弁** **弁** **弁**

あまのこ **弁** **弁** **弁**



南の空を渡る

今も昔も変わらぬ

あふくさうのうた

のうたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう

うたをうたう



まのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

まのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

東雅漢印信なれ白太右

にちのつゆ也

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

まのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ

まのつゆのつゆのつゆのつゆ



Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

Handwritten text in cursive script, starting with a red initial.

新嘉坡の海軍大臣の  
手紙の返事

新嘉坡の海軍大臣の

手紙の返事

新嘉坡の海軍大臣の

手紙の返事

新嘉坡の海軍大臣の

手紙の返事

新嘉坡の海軍大臣の

手紙の返事

新嘉坡の海軍大臣の

手紙の返事

新嘉坡の海軍大臣の

手紙の返事

新嘉坡の海軍大臣の

手紙の返事

新嘉坡の海軍大臣の

手紙の返事

新嘉坡の海軍大臣の

手紙の返事

ねんねん

いんいん

いんいん

いんいん

いんいん

いんいん

いんいん

いんいん

いんいん

いんいん

女のつらみ

礼記内則又禮上男女不同注梳イカ櫛カ

櫛イカ櫛カ櫛カ櫛カ

櫛イカ櫛カ櫛カ櫛カ

櫛イカ櫛カ櫛カ櫛カ

櫛イカ櫛カ櫛カ櫛カ

櫛イカ櫛カ櫛カ櫛カ

櫛イカ櫛カ櫛カ櫛カ

櫛イカ櫛カ櫛カ櫛カ

櫛イカ櫛カ櫛カ櫛カ





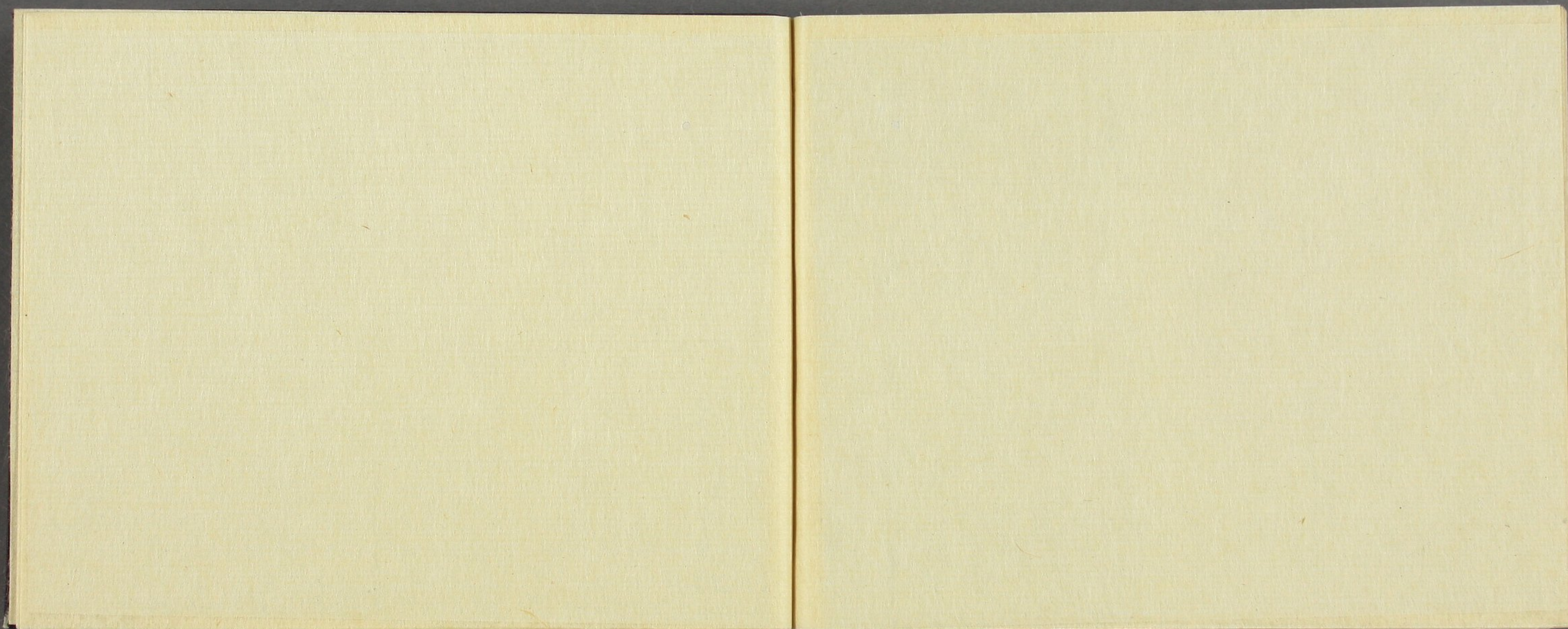


あやふしな御成程の御成程  
えんえんえんえんえんえん  
えんえんえんえんえんえん  
えんえんえんえんえんえん  
えんえんえんえんえんえん

あやふしな御成程の御成程  
えんえんえんえんえんえん  
えんえんえんえんえんえん  
えんえんえんえんえんえん  
えんえんえんえんえんえん  
えんえんえんえんえんえん

あやふしな御成程の御成程  
えんえんえんえんえんえん  
えんえんえんえんえんえん  
えんえんえんえんえんえん  
えんえんえんえんえんえん





墨符百四十三枚

